

平家岳

【日程】 2016年7月20日

【エリア】 福井県和泉村

【形態】 ハイキング

【メンバー】 K岡、I藤、K藤、Y尾

【報告】 Y尾

《ルート／タイム》

面谷鉦山跡（10：10）→面谷林道終点（10：40）→第1鉄塔（12：25）→
井岸山（13：20）→平家岳（13：45）昼食 下山出発（14：15）→下山（17：00）

1400m

1442m

《報告》

梅雨が明けて2日目、最高の登山日和。平家と言う名がついているゆえ、歴史になんらか関係があるのではと、調べることにした。大いに関係があった。越中加賀国境の倶利伽羅峠の戦いに敗れた平家軍の

一部が山中に潜んだとの伝承があり、それが、この山の由来らしい。



東海北陸道を白鳥 IC で下り 158 号線を西に、九頭竜湖にかかる箱が瀬橋を渡り、面谷川にかかる面谷橋を渡り、川沿いの林道を進む。右手に見慣れない小石の山、なんだろう？ と思いつつ進んでいく。すると左手に面谷鉦山の住居跡を示す看板。なぞが解けた。つまり、右手の光景は鉦さいの山である。80 年ほど前に閉山した鉦山とある。銅山の名残。今も住居跡が点在していることを思えば当時の繁栄がしのばれる。

大変な悪路、ミラーのない山道を慎重に進む。やっと林道の終点到着。5, 6 台は止められるくらいの駐車場があった。準備を整え、登山道をゆっくり登っていく。風がないので暑い。ジグザグの急な坂が続く。低山に自生するリュウブの花が、パラパラと咲いていた。出発から約1時間後、桧の大木に出会う。太い幹、根っこがごつごつ、ところどころにいくつかこぶがある。童話に出てくるような木、こぶが顔に変わり、頑張れ！ と言い出すような感じだ。水分補給のための小休止。再び歩き出す。



やっと最初の鉄塔に到着。それから緩やかな尾根歩きが続く。真っ赤な実をつけている野いちごに手を伸ばし口に運んだ。甘酸っぱかった。所々にガクアジサイが残っていた。整備された明るいところにでてくると堂々とした荒島岳が目に入った。その右手の奥には白山が見えるはずだが、うす雲か、白山か？判明できなかった。送電線に沿って進むが、登り下りの繰り返して、へとへと。やっと井岸山に到着。正面に平家岳が迫っていた。そこから、再び 10m ほど下って、斜面を登っていった。

平家岳の頂上には二等三角点があった。そこからの展望はすばらしい。遮り物が無く、360 度見渡せた。

昼食後急坂を慎重に下っていった。K 氏は調子がよいらしく、あつと言う間に下りて行った。I K Y は、慎重に、一步一步踏みしめての下山。



途中、伊勢橋の分岐のところに 15 : 45 通過、奈良山岳会 K の紙。それを拾って、我々は約 20 分遅れでそこを通過。やっと水の流れる音が耳に届いた。最後の力をふり絞って、されに慎重に下山。17 時に駐車場に到着。

復路は九頭竜湖の北側を西に走り、福井 IC から北陸自動車道に入り名神、京滋そして帰奈した。往路、復路で、どちらがどれくらい近いのか、を比較するために、往路は東海北陸道、復路は北陸自動車道を利用した。結果、往路 251k 復路 270k でほぼ 20k の差であった。

以上